

令和6年度

# 地域福祉懇談会実施報告書

---

恵那市 社会福祉課

恵那市社会福祉協議会

## ◆令和6年度 地域福祉懇談会の概要

令和5年4月より5カ年の計画として施行された第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画における地区計画「今後の取り組み」内の各項目について、各地区で関係機関による地域福祉懇談会を開催し、選定した課題の検討をグループワーク形式により実施した。

## ◆地域福祉懇談会開催に向けた取り組み

地域福祉懇談会で話し合う項目・内容や地域福祉懇談会で参加者からの意見などを事務局（恵那市役所社会福祉課、高齢福祉課、振興事務所、恵那市社会福祉協議会地域担当者、社協計画進行管理担当者）にて事前に調整会議を実施し、令和7年度（※一部令和6年度）の取り組みにつながる目標の共有を行った。

## ◆令和6年度 地域福祉懇談会の特徴

恵那市高齢福祉課（恵那市地域包括支援センター）が主催となり実施している「地域自治区ケア推進会議」との一体的開催を図り、昨年度まで話し合われていた地域自治区ケア推進会議の内容を第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画の地区計画における「今後の取り組み」各項目の進行管理に落とし込むことで、まとめて検討を行えるように会議体の変更を行った。

## ◆令和6年度 福祉合同会議の内容・特徴

「地域自治区ケア推進会議」との一体的開催に合わせ、従前の振り返り会議から新たに会議名を『福祉合同会議』とした。地域福祉懇談会に参加された方の中から、具体的な活動を検討するために参加者を選定し実施した。

また、地域福祉懇談会（多くの関係機関からの意見聴取の場）と福祉合同会議（具体的な活動を検討する場）の開催については、地域の実情に合わせて会議の回数を変更・調整することを試みた。

■令和6年度 地域福祉懇談会日程表

地区	日にち	日時	場所	参加人数
大井	10月17日	19:00-20:30	大井自治会館	40名
長島	9月25日	19:00-20:30	恵那市防災センター	37名
東野	11月13日	18:30-20:00	東野振興事務所	25名
三郷	10月18日	19:00-20:30	三郷振興事務所	32名
武並	9月20日	19:00-20:30	武並振興事務所	29名
笠置	10月21日	19:00-20:30	笠置振興事務所	31名
中野方	福祉合同会議と一体的な開催			
飯地	福祉合同会議と一体的な開催			
岩村	12月3日	10:00-11:30	岩村福祉センター	33名
山岡	8月19日	14:00-15:30	山岡振興事務所	26名
明智	9月18日	19:00-20:30	明智振興事務所	31名
串原	9月25日	13:30-15:00	串原振興事務所	18名
上矢作	10月2日	19:00-20:30	上矢作振興事務所	26名

合計参加者 328名

■令和6年度 福祉合同会議日程表

地区	日にち	時間	場所	参加人数
大井	11月26日	10:00-11:30	市役所北会議棟	13名
長島	10月23日	10:00-11:30	恵那市福祉センター	10名
東野	12月4日	13:30-15:00	東野振興事務所	12名
三郷	11月28日	15:00-16:30	三郷振興事務所	12名
武並	10月3日	10:30-12:00	武並振興事務所	9名
笠置	12月3日	14:00-15:30	笠置振興事務所	15名
中野方	12月5日	13:00-15:00	中野方振興事務所	11名
飯地	11月6日	9:30-11:00	飯地振興事務所	16名
岩村	1月14日	9:00-10:00	岩村福祉センター	11名
山岡	9月5日	14:00-15:30	山岡振興事務所	11名
明智	10月17日	10:00-11:30	明智振興事務所	10名
串原	12月9日	13:30-15:00	串原振興事務所	11名
上矢作	11月12日	10:00-11:30	上矢作振興事務所	14名

※参加人数は事務局含む

合計参加者 155名

◎地域福祉懇談会&福祉合同会議 参加者

社協支部関係者、地域自治区、自治連、民生児童委員、壮健クラブ、地域ボランティア、福祉委員、教育関係者、学童、福祉事業所、ケアマネジャー、振興事務所など

■令和6年度 地域福祉懇談会&福祉合同会議内容

地区：大井
話し合いの項目：③地域のつながりの活性化・防犯、防災体制の強化
内容・結果（次年度に向けての取り組み・課題） <u>災害時における地域での見守り活動の活性化</u> ➡災害時の見守り活動の推進（個別避難計画の作成） ・『民生委員の見守り対象者から作成』 災害時の見守り体制の強化を図るため、民生委員見守り対象者から個別避難計画を作成し、地域と共有を図ることで地域全体の見守り体制強化へとつなげる ・『防災・防犯活動への周知活動』 大井支部社協が主体となって行う各区で開催する地域ふれあい交流会の中で、災害時における見守り活動の必要性・重要性についての周知方法を検討する ペット防災や子ども110番の取り組みなど地域をつなげながら防災・防犯の活動を町民とともに取り組みを図る

地区：長島
話し合いの項目：②見守り活動の促進 ⑤防災体制の強化
内容・結果（次年度に向けての取り組み・課題） <u>地域での見守り活動の促進・強化（平時・災害時）</u> ➡見守り活動の促進（平時） ・『福祉委員の役割明確化・体制の見直し』 令和7年度福祉委員委嘱式に合わせ、長島町としての福祉委員グランドルール（役割・体制）の作成を図る ➡防災体制の強化 ・『DIG訓練の継続』 各区で開催している災害時に備えたDIG訓練を、各区と連携し継続開催を図る ・『顔の見える関係づくりのための勉強会の開催』 DIG訓練のみで終わることなく各区と相談しながら、区・民生委員・福祉委員・防災士が意見交換できる機会を検討する

地区：東野
話し合いの項目：③若者や子育て家庭の定住促進 ⑤多様な交流機会の設置
内容・結果（次年度に向けての取り組み・課題） <u>若者や子育て家庭への取り組み</u>

<p>➡町の魅力（地域福祉活動）発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『広報ひがしの1ページを福祉ページとして情報を定期発信』</li> <li>・『SNSを活用した情報の発信』</li> </ul> <p>広報ひがしのを活用し、サロンなどの活動を定期発信することで多くの町民へ情報を発信する仕組みを検討する</p> <p>SNS（Instagram）の立ち上げを検討し、若者に対して情報が届きやすいツールを活用した情報発信を検討する</p> <p><u>多様な交流機会の設置</u></p> <p>➡交流機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『学童・配食サービスが中心となった交流機会の開催』</li> </ul> <p>子どもと高齢者の活動をミックスした取り組みとして、学童と配食サービスと一緒に活動を行う交流機会を検討する</p> <p>➡ボランティア活動者の交流機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『サロン交流会の開催』</li> </ul> <p>地区内でサロンボランティアとして活動している方が集まる機会を創出し、運営者同士の交流や意見交換からニーズ把握や新たな取り組みを図る</p>
---

<p>地区：三郷</p>
<p>話し合いの項目：④地域での見守り活動等の推進</p> <p>⑤移動手段の確保</p>
<p>内容・結果（次年度に向けての取り組み・課題）</p> <p><u>見守り活動の推進（困りごとのニーズ把握・ボランティアの発掘）</u></p> <p><u>移動手段の確保（地域で助け合える体制づくり）</u></p> <p>➡地域をつなぐ人が必要（両課題とも）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『地域なんでも相談会の開催』</li> </ul> <p>町内各団体の活動を適切につなぐ仕組みと新たなボランティア発掘の仕組みづくりとして、定期的な相談日を設けることを検討する</p>

<p>地区：武並</p>
<p>話し合いの項目：①地域での見守り活動等の拡充</p> <p>⑤子どもや子育て世代への支援</p>
<p>内容・結果（次年度に向けての取り組み・課題）</p> <p><u>地域での見守り活動への取り組み</u></p> <p>➡地域での見守り活動等の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『民生委員と福祉委員との情報交換会の開催』</li> </ul>

福祉研修会の継続した開催を図り、民生委員・福祉委員・自治会を含めて情報交換・勉強会を行える体制を検討する

- ・『学校やPTAとの連携体制の強化』

夏休み期間中に小学生が行うラジオ体操へ地域の方の参加を図っている、民生委員や福祉委員が地域住民と子どものつなぎ役として周知などの仕組みを検討する

#### 子どもや子育て世代への支援

##### ➡多世代交流の機会創出

- ・『子どもと一緒に作る多世代交流の場づくり』

子ども・高齢者の多世代間の交流の場として、地域内で顔の見える関係づくりとして地域食堂の開催を検討する、福祉研修会の際に民生委員・福祉委員・自治会へ提案を図り意見聴取を行っていく

地区：笠置

話し合いの項目：②見守り活動の拡充

⑤移動手段の確保

結果（次年度に向けての取り組み・課題）

多様な見守り活動の取り組み（おしゃべり会を通じた地域全体による見守り）

移動手段の確保（みかさぎの周知・有効活用）

##### ➡多様な交流機会の創出

- ・『おしゃべり会の再開』

新型コロナウイルスの影響から開催が出来ていないおしゃべり会の再開に向け、今までの開催方法ではなく、新たな行事としてサロンや福祉委員、中学生などより多くの町民が関われる行事・笠置の地域活動を周知できる場として開催できるような場として検討する

地区：中野方

話し合いの項目：⑥地域福祉を担う後継者の育成

結果（次年度に向けての取り組み・課題）

福祉人材の確保

##### ➡担い手確保の取り組み

- ・『今ある「活動」を無くさない取り組み』

まめくらの存続や様々な地域活動を継続するために、はつらつサポーター登録者や子育て世代からの意見聴取など、新たなボランティア活動者が発掘される仕組みづくりを検討する

地区：飯地
話し合いの項目：②見守り活動などの高齢者等の生活支援
<p>結果（次年度に向けての取り組み・課題）</p> <p><u>多様な見守り活動の推進</u></p> <p>➡飯地商店の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『市の見守り配食サービスに飯地商店が登録し、配達と見守り活動を行う』</li> </ul> <p>地域に根付いた団体による配食サービスを行うことで、地域の情報の吸い上げにつながる体制作りを進めていく</p> <p>独居高齢者の困りごとを聞く機会を検討し、地域のニーズ把握を図る</p>

地区：岩村
話し合いの項目：①高齢者等の生きがいづくりや生活支援の充実 ④ボランティア活動の活性化
<p>結果（次年度に向けての取り組み・課題）</p> <p><u>地域の見守り体制の強化</u></p> <p>➡福祉委員の役割周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『次年度福祉委員を担う方に対して、役割が分かる資料を配布』</li> </ul> <p>岩村町として福祉委員を継続して残すことが決まったが、委員の役割については地域として明確になっていないため、福祉委員を担う方へ何を行う役なのかを伝える仕組みづくりを構築する</p> <p><u>ボランティア活動の活性化</u></p> <p>➡高齢者への生活支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『ボランティア希望者とボランティアをつなぐマッチングの仕組みづくり』</li> </ul> <p>地域の方が生活でどのようなことに困っているか明確にすることで、地域の助け合いの輪を広げる仕組みづくりを図っていく</p> <p>岩村支部社協が行うことで、社協会員になる＝自治会加入のメリットから自治会加入の増加を期待しつつ、自治会との連携の元取り組んでいく</p>

地区：山岡
話し合いの項目：①あらゆる人に対する見守りや生きがい活動等の拡充 ②買い物や通院など交通弱者への配慮
<p>結果（次年度に向けての取り組み・課題）</p> <p><u>あらゆる人に対する見守りや生きがい活動等の拡充</u></p> <p>➡多世代交流の機会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『新しいさとやま食堂の開設』</li> </ul>

さとやま食堂を町内各地区で多世代交流ができる場所として開催の継続をする、馬場山田地区で開催を計画し、調理の役割で男性が参加できるなど新しい交流機会として計画を行っていく

(R6.11.4 馬場山田地区にてさとやま食堂を開催)

- ・『健康増進センター楽歩を活用した多世代交流機会の創出』  
山岡町の特色ある施設として、多くの町民が集う場として活用していく第一歩として、山岡町が行うイベントへの参加や施設内でのイベントを検討する

買い物や通院など交通弱者への配慮

➡福祉交通手段や移動販売の充実に向けた検討

- ・『交通手段や移動販売についての協議は継続』  
高齢者にとって利用しやすい交通手段の検討や移動販売業者の現状と課題における地域の取り組みは、抜本的な解決策を構築することが難しいため行政関係部署とも連携した継続した話し合いを行っていく

地区：明智

話し合いの項目：①地域での見守り活動などの充実

⑥多様な住民交流の推進

結果（次年度に向けての取り組み・課題）

見守り活動の充実

➡民生委員と福祉委員の連携

- ・『民生委員と福祉委員の連携体制強化』  
福祉委員へ情報共有の大切さをより深く理解してもらうため、年 2 回の会議以外の情報周知など、福祉委員との顔の見える関係づくりの強化を検討する

➡男性の地域参加

- ・『役割（目的）を持った場づくりの検討』  
サロンでは男性が役割を持って参加しているケースがある、回想法センターやききょう大学など明智町独自の行事と連携し男性が参加しやすい場づくりを検討する

子育て世代への支援について

➡多世代交流の機会

- ・『ぬくたい食堂の各地区開催』  
児童・子ども教室・ボランティア団体と協力しながら、中学生ボランティアや恵那南校生には企画から参画してもらうなど、多くの地域の方が集まる機会としての取り組みを行っていく

地域に根付いていく過程の中で小地域が主体的に行える形を検討していく

地区：串原

話し合いの項目：②移動・買い物支援の拡充

③伝統文化の保存活動を通じた地域活動への参加促進

結果（次年度に向けての取り組み・課題）

買い物支援への取り組み

➡恵南商工会との連携

・『いきいき教室やサロン、こども園などへの対応』

移動販売ステーションに集いの場を加えることができるのか恵南商工会へ提案し、サロンなどへの移動販売の必要性については活動者へ意見聴取を行っていく

地域活動への参加促進（伝統文化を通じて）

➡高齢者の健康づくり

・『伝統文化を継承するには高齢者が元気であることが必要』

壮健クラブで様々なスポーツ大会を行っているため、多くの方へ周知する高齢者がいつまでも健康であることが、結果として少ない人口でも伝統文化を守っていくことにつながる取り組みとなる

地区：上矢作

話し合いの項目：②買い物や通院など交通の充実

③多様な高齢者支援の実施

結果（次年度に向けての取り組み・課題）

地域内交通の充実（買い物・通院）

➡他会議・事業者との連携

・『健康福祉部会で高齢者の意見・ニーズをまとめて伝える』

上矢作町交通政策会議や恵南商工会による移動販売意向調査の情報を健康福祉部会で共有し、高齢者の意見・ニーズを反映できるよう継続して高齢者からの意見聴取を行い、連携した取り組みを図る

高齢者への買い物支援（地域による支え合い活動）

➡買い物支援への取り組み

・『恵南商工会が行うアンケート結果を基に買い物支援が必要なのか判断』

草刈りなどの生活支援は自治会などで行う体制が町としてできている、家族が遠方で買い物支援が行き届かない方に対しては支援が必要となる、事業者との連携も含め恵南商工会の意向調査を参考に地域としての取り組みを検討する

## ◆まとめ（令和6年度 地域福祉懇談会総評）

地区特有の課題に対しては、第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画における進行管理の状況と地域福祉懇談会・福祉合同会議での意見聴取を踏まえ、次年度に向けた取り組み内容が具体的に決まる地区が多く見られた。それにより、地区として目指していく方向性の意思統一を関係者で図れた点が多数見られるという結果となった。

その一方で、話し合いの項目によっては課題解決には市内全域や地区をまたぐ取り組みが求められる内容が見られた。今後、計画における進行管理を進めていく上で、福祉分野だけの視点で協議を行うのではなく、広い視点で協議する場の必要性を感じる結果となった。

各地区で話し合いの項目を選定して懇談会を実施したが、その中で多くの意見をいただいた内容を3点整理した。

### 1. 人と人とのつながりについて

人と人とのつながりが薄くなってきており、その結果として「自治会未加入の問題」に対する取り組みが求められているという意見があった。その背景には、「日常生活の変化により、人付き合いの減少」「個人主義的、地域に無関心などの意識の変化」という問題から「向こう三軒両隣の関係構築が必要」との意見が多かった。

しかし、「昔と比べて今は個人の考えを否定できない、この意識を変えるのは不可能で、自治会活動を活発化させるのは難しい」「高齢者と若者では支えあいの意識の違いが大きい」「災害が実際に発生しないと、近所付き合いや助け合いの必要性は認識しない」などの意見もあった。

### 2. 世代を越えた交流機会の必要性

地域のつながりを構築していくための手段として、市民同士が顔見知りになり、コミュニケーションを図っていくことがポイントとして多く挙がり、そのためには市民が交流する機会を増やすことが大切という意見が多かった。

具体的には「行事などの交流活動を通じた世代間での交流を深めていくことで、地域内の人を知ることができ、結果として地域内の見守り活動や支え合い活動が広がっていく」などの意見もあった。

### 3. 個人情報保護・プライバシーの問題

個人情報を守る意識の高まりやプライバシーの視点から、見守り活動を推進していく上で「要支援者の情報を地域の一個人がどこまで把握するものなのか」、「集めた個人情報をどのように管理すべきなのか」、「情報を把握することに苦慮し地域活動が

停滞している」との意見が多かった。

災害時において、関係者が適切に情報を活用するためには、平時に確認しておくことが重要となるのだが、市民に根付いた個人情報への意識の高まりが、地域活動が停滞する要因の一つとなっているのではという意見もあった。

以上の 3 点は地域福祉活動を推進していく上で重要な視点であると感じられる。来年度以降の計画進行管理において、この 3 点を重要な視点として盛り込んだ協議が実施できるよう事務局で検討を進めていく必要がある。